

【1】阿難が釈尊の侍者を務めた期間に関する原始仏教聖典資料

[1] 阿難は以下のように、釈尊の後半生の25年間ないし20余年間、侍者比丘 (P. *upaṭṭhāka* : Skt. *upasthāyaka*) を務めたとされる。根本有部の伝承が「20余年間」とする以外は、すべて「25年間」とする。

Theragāthā, vs.1039-1043 (阿難の偈)

「25年間、有学であった私に」 (*paṇṇavīsativassāni, sekhabhūtaṃ me sato*)

「25年間、私は世尊に仕えた」 (*paṇṇavīsativassāni, bhagavantam upaṭṭhami*)

『長阿含經』002「遊行經」(大正01 019下) : 「自我得侍二十五年」

『佛般泥洹經』(白法祖訳)(大正01 p.169上) : 「自吾親侍二十五年」

『般泥洹經』(失訳)(大正01 p.181下、184上) : 「自我得侍二十餘年」

(p.185中) : 「我得奉侍二十五載」

『根本説一切有部毘奈耶雜事』(大正24 p.394中) : 「我侍世尊二十餘年」

Mahāparinirvāṇasūtra ed. E. Waldschmidt (Teil II, pp.280~281)

Skt. : ahaṃ viṃsatim varṣāni sādhiḥkaṃ bhagavantam upatiṣṭhāmi

Tib. : bdag gis dgung lo nyi shu lhag gcig gi bar du bcom ldan 'das kyi zham
'bring na mchis na.

[1-1] 阿難が釈尊の侍者になったのは、「25年間」説にしたがえば釈尊成道後第21年ということになり、「20余年間」にしたがえば遅くとも釈尊成道後第26年には侍者になっていたということになる。

ところでパーリのアッタカターの雨安居地伝承では釈尊成道後第21年以降が、『僧伽羅刹所集經』では成道後第26年以降が、すべて連続で舎衛城とされている。阿難が侍者を務めた年数を「25年間」とすれば、阿難が侍者になったその年がアッタカターのいう舎衛城での雨安居のはじまりであり、また「20余年間」を最短に見積もって20年間とすれば、阿難が侍者になったその年が『僧伽羅刹所集經』の示す舎衛城の雨安居のはじまりの年となる。なお釈尊入滅の年の最後の雨安居地についてはアッタカターには記述がなく、『僧伽羅刹所集經』は「跋祇境界毘将村」としている。これが諸涅槃經の記事を念頭においたものであろうことは疑うべくもない。